

— 議事概要 —

■議題1 最終報告書（案）について

発言者	発言内容
事務局	（前回からの）大きな変更点は、付録5の『法定スキャンツールの年次検査に関する調査・検討（案）』。制度開始当初は、年次検査について基準化、制度化をせず、法定スキャンツールの使用実態調査を踏まえ、年次検査が必要か検討することとする。
後藤委員 （機工協）	法定スキャンツールの年次検査については実態調査を踏まえて、今後のツール等の環境改善等に資するものにしたいたいと考えている。各関係者と協議の上進めていきたい。
自工会 オブザーバ	報告書14ページ、OBD検査の対象とする自動車について、手続き上、もう少し具体化する必要がある。
事務局	ご指摘を踏まえ、型式指定車をベースとした改造車の定義など、しっかり法令ないし通達で定義していく。
三上委員 （軽検協）	報告書34ページ、軽自動車の車検証の電子化については、システム更改の時期を踏まえ、普通車より約1年遅れを予定している。「できるだけ近い時期に」という、電子化の中間とりまとめの記載を引用していただきたい。
事務局	承知した。注を付けて、電子化の中間とりまとめの記述を引用する。
伊藤委員 （交通研）	最後につけられた3枚の概要図の2ページ目、法定スキャンツールの機能について、「認定を受けたもの」という条件が必要ではないか。
事務局	「基準に適合することについて認定を受けたものであること」という追記をする。
三上委員 （軽検協）	報告書32ページ、認証工場が予め機構サーバーに接続して特定DTCの有無を確認した車両については、車検場でのOBD検査を省略することができるという取扱いに関して、軽検協としてはスキャンツールの年次検査が行われることを前提に認めることを考えていた。 アメリカのOBD検査の調査でも、不正事案への対策として年次検査が実施されており、不正対策が必要不可欠と考えている。 年次検査は実施しなくなったので、別添5の調査とリンクさせるような表現にした方がいいのではないかと考えている。
高橋委員 （日整連）	機構サーバーにアクセスできる条件（指定・認証工場のID登録等）と、認証されたスキャンツールの使用で正当性は担保されていると考えている。

発言者	発言内容
久保田委員 (機構)	年次検査によるハードの確認は実施しないが、特定 DTC 照会アプリについては、最新のバージョンであるかサーバーで確認するので、法定スキャンツールの正確性は担保されると考えている。新たに問題が発生した場合には、報告書 32 ページに記載の「その規程に基づき適当と認めるとき」の考え方にに基づき、機構がその是非を考えれば良いため、原案のままが良い。
事務局	法定スキャンツールについて、認証工場における不正改造等が発覚した場合は、認証工場が車検場に持ち込んだ車について OBD 検査を省略する取扱いを停止することも機構や軽検協の責任において可能であるという理解のもと、運用してはどうか。
三上委員 (軽検協)	承知した。
自工会 オブザーバ	3 枚の概要図の 3 ページ目、過去の検査結果を見る機能の記載が必要である。
事務局	承知した。そのように修正する。
長谷川委員 (JAIA)	特定 DTC 提出の際の問い合わせ窓口は、機構でよいか。その際のスキームについては、今後策定していくのか。
事務局	問い合わせ窓口は一元的に機構へお願いするが、疑問点等があれば国も相談に乗ることとしたい。 手続きについては通達に記載していく予定。
久保田委員 (機構)	検査結果を保存し、それを整備工場に提供する場合には、個人情報のやりとりについてユーザーから了承をもらわないといけないといった個人情報の取扱いに関する課題がある。
事務局	重要な指摘である。制度設計、システム設計において考慮したい。
長谷川委員 (JAIA)	3 枚の概要図の 2 ページ目、右下検査開始時期の※印、認証を受けた自動車という表記になると PHP (輸入自動車特別取扱自動車) も含まれてしまうので、表現を変えていただきたい。
事務局	承知した。修正する。
事務局	1 月から 2 月にかけてパブリックコメントを実施し、一般から意見を募集し、その内容を踏まえて必要があれば報告書案を見直した上で年度内にとりまとめる予定としている。

■議題2 検査開始までの準備計画（案）について

発言者	発言内容
三上委員 (軽検協)	資料3はパブコメの対象ではないか。 4.にある機構欄において、軽検協も共通して実施するものもあるので追記していただきたい。
事務局	資料3はパブリックコメントに付けるものではない。 機構をベースに軽検協の欄を作るのでメモ出しをお願いしたい。
藤原委員 (自機工)	法定スキャンツールの開発をすすめるためには、機構のアプリの仕様書や車両メーカーからのプロトコル規定書が必要。早期の情報提供をお願いしたい。
事務局	フォローアップ会議の主要課題の一つとして早々に検討する。
自機工 オブザーバ	プロトモデル配布と認定試験の時期は少しずつらした方がよい。
事務局	ここで記載したプロトモデルとは、試作機という意味合いではなく、指定工場においてすぐにでもOBD検査が実施できるようなものを想定していた。具体的にどこまでに試作機を制作していくかについてもフォローアップ会議で検討したい。
自工会 オブザーバ	提出は2021年10月の新型からとあるが、10月以降に型式指定された車からという理解でよいか。
事務局	10月は仮置きだが、起算日の考え方はご理解のとおり。
自工会 オブザーバ	この準備計画は国・機構・軽検協等のやるべきことが記載されているが、全国3万の指定工場の教育等の準備期間等も考慮して検討いただきたい。
高橋委員 (日整連)	日整連としても、指定工場関係の準備について、地方のニーズ等も含めてフォローアップ会議でお伝えさせて頂きたい。
事務局	今頂いたような、フォローアップ会議ですぐに議論を始めなければならない事項について、第1回の会議までに各団体より提出頂きたい。

以上